

JACET中国・四国支部 Newsletter

第 25 号

目次

1. 巻頭言	支部長 岩井 千秋	pp.1-2
2. 2020 年度支部第 1 回役員会報告	事務局幹事 岩中 貴裕	p.3
3. 2020 年度支部研究会 第 12 回 OPP イベントについて	OPP 代表 三熊 祥文	pp.3-4
4. 2020 年度秋季研究大会発表応募要領		p.4
5. 2020 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』第 18 号投稿募集		p.5
6. 事務局だより		pp.5-6
編集後記		p.7
【重要】ニューズレター（NL）配信についてお願い		p.7

1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩井 千秋

支部会員の皆様、お変わりございませんか。今回の巻頭言は、この話題以外は考えられません。そう、コロナウイルスです。このニューズレターが皆様のお手元に届くのは7月末です。その時期には、試練の今学期ももうひと踏ん張り、とお感じの方が

多いのではないかと思います。もちろん私もその一人です。Zoomに Teams, さらに Google Classroom, WebClass と、3月まで聞いたこともないアプリばかりでした。遠隔授業との日々の格闘は、かつて経験したことのない重度の眼精疲労と肩凝りのおま

けつき、還暦を過ぎた老体にはいささか堪えます。皆さんはいかがでしょう？

さて、このコロナ禍ですが、私たちの学会活動にもさまざまな影響がありました。まずは今年8月末に同志社大学で予定されていた JACET 年次国際大会が中止となったことです。寺内会長を含む本部執行部では3月の早い段階からコロナ対策の検討を開始され、理事会メーリングリストで情報提供に努められました。東京オリンピック延期が3月末に決まり、同時期に開催予定であった年次国際大会にも暗雲が垂れこめてきました。しかし、簡単に中止というわけにはいきません。発表申請の採否がすでに申請者に通知されていたからです。大会中止は、会員の貴重な研究発表機会を奪うこととなります。そこで、2年前にスタートした JAAL in JACET において希望者に発表の機会を提供するという代替措置がとられました（これは会員にすでに通知され、学会サイトでも情報提供されています）。これを受け、5月1日付けで国際大会中止の決定通知メールが JACET の全会員に送られました。

同じころ、私たちの支部でも6月の支部研究大会の開催可否の判断に迫られました。3月下旬に支部役員にメールで相談し、4月中旬に最終判断をすることにしました。苦渋の選択ではありましたが、実施すれば会場校に多大な迷惑をかけかねないこと、さらに、あの状況で多くの参加者を期待するのは難しかったこと、その実、敢行してクラスターでも生じれば、取り返しのつかないことになっていたでしょう。そうしたさまざまな事情に配慮し、結局、支部役員によるメール会議で中止を決定した次第です。次の秋季研究大会は、10月17日に山口学芸大学で予定されています。こちらも今後、コロナの状況に注意する必要があることは申し上げるまでもありません。しかし、2回連続の中止となると、支部にとっては痛恨の極みです。安全を最優先しつつ、役員や会員の皆様と開催をどうするか一緒に考えていければと思っています。

もうひとつ、支部ではこれから向こう1

年にかけて大きなイベントが待っています。すでにニューズレターでお知らせしたとおり、私たちの支部は60回記念国際大会の担当当番で、安田女子大学での開催も決定されています。心配なのは、緊急事態宣言解除の後、大都市を中心にまたコロナ感染が不気味に拡散していることです。また、この秋には第2波が来ると多くの専門家が警鐘を鳴らしています。2年続けて年次国際大会中止というわけにはいきませんので、理事会や国際大会準備委員会では遠隔発表も視野に入れて準備が進められています。その手始めに、上述の JAAL in JACET では、遠隔による発表が導入される予定です。また、他の支部では、この夏以降に支部大会を遠隔で実施するところがあります。こうした試みは来年の国際大会への試金石となることでしょう。いずれにしても、今のままだとかなり変則的な国際大会になるかもしれません。

話を元に戻しましょう。見切り発車でスタートした遠隔授業ですが、学生に心理的重圧となっているという指摘がある一方で、遠隔の方がよいという学生の声も最近は耳にするようになりました。それは教員もしかりです。遠隔開始前の不安とは裏腹に、実際に体験してみると得るものが大きかったことも確かです。昨今の英語教育ではコミュニケーション能力の育成が何かと話題になりますが、遠隔教育の経験から、新たなコミュニケーション手段の発達を切実に感じさせられたのは、他ならぬ私たち英語教員だったのかもしれません。オンラインによるボーダレス化により EFL と ESL の区別がさほど意味を持たなくなる日も近いのかもしれません。そうすると、教材も指導方法も、そして英語教育の目的そのものも見直しを余儀なくされるかもしれません。勝手に開いてしまったパンドラの箱をいくら嘆いても元には戻せません。ひと時も早いコロナの終息を願いつつ、ポストコロナに備えていきたいものです。試練の時は続きますが、会員の皆様のご健勝とご活躍にエールを送ります。

(広島市立大学)

2. 2020 年度 JACET 中国・四国支部

第 1 回役員会報告

事務局幹事 岩中 貴裕

2020 年 5 月 25 日 (月) ~ 6 月 1 日 (月) に 2020 年度第 1 回支部役員会をメール会議にて開催し、2020 年度の活動、2021 年度の事業計画、2021 年度中国・四国支部人事、第 60 回記念国際大会 (中国・四国支部担当) に伴う支部の業務担当者、支部研究大会の発表資格、及び支部研究紀要への投稿資格について審議を行いました。

2020 年度 (後期) および 2021 年度事業計画について、お知らせいたします。

1) 2020 年度秋季研究大会

日程：2020 年 10 月 17 日 (土)

場所：山口学芸大学

(山口県山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号)

※8 月末を目途に、開催の有無を支部会員メーリングリストでお知らせする予定です。

2) 2020 年度 Oral Presentation & Performance (OPP) Event

日程：2020 年 12 月 13 日 (日)

場所：調整中

3) 2021 年度春季研究大会

日程：2021 年 6 月 5 日 (土) 予定

場所：安田女子大学 (広島県広島市)

4) 第 60 回記念国際大会 (中国・四国支部担当)

テーマ：「時代の変化を乗り越える英語教育 - Society 5.0 という現実を迎えて -」

日程：2021 年 8 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日)

場所：安田女子大学 (広島県広島市)

5) 2021 年 Oral Presentation & Performance (OPP) Event

日程：12 月中旬

場所：未定

6) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』 (第 18 号)

発行：2021 年 3 月 31 日 (予定)

・支部ニューズレター

発行：2020 年 7 月 30 日 (第 25 号)

2021 年 1 月 10 日 (第 26 号)

3. 2020 年度支部研究会 OPP イベントについて

OPP 代表 三熊 祥文

私が取り組んできた研究のテーマは、英語学習装置としての教室外イベントです。明治時代から資料を通覧していくと、興味深い歴史の足跡が見えてきます。例えば、昨年段階で現在実施されている大学生英語スピーチコンテストの最も歴史の古いものは西南学院大学学術文化会 E.S.S 主催の「ギ

ャロット杯争奪英語弁論大会」ですが、その回数は 70 回です。記憶が定かではありませんが、10 年以上前にその歴史を閉じたメジャー大会に「英文毎日杯・NHK 杯全国学生英語弁論大会」という大会がありました。これが健在だった時に先のギャロット杯は「毎日・NHK 杯に次いで日本で 2 番目に古

い大会」と自称していました。その毎日・NHK 杯は前身が「ジェネラルマッカーサー杯」だったと聞いています。ということは、第二次大戦後に始まった大会が最古だったということで、それ以前のイベントで継続しているものはありません。私の研究によれば、明治・大正・昭和初期にもスピーチコンテストやドラマ、ディベートなどの活動は活発に行われていましたが、戦争で一旦終了し、リスタートしています。

なぜこのような話をしたかという、今回のコロナ禍により、甲子園などを例に出すまでもなく中止は戦時中以来である、というケースが散見されるからです。スピーチコンテストの類は、軒並み中止や延期を余儀なくされており、こんなことは私の英語教育・学習歴になく、先例は戦争まで遡らなければならない事態なのです。

OPP イベントも、コロナの影響により現段階では開催を明言することができない状

況です。大学の授業も対面方式に踏み切るか、オンラインを継続するか、まだ対応方法の進展がありそうな段階で、実施を明言し、参加を募集することは困難です。

つきましては、2020 年度の OPP は会員のそれぞれの所属大学の対応を視野に入れながら、もうしばらく検討を継続させていただき、支部のメーリングリストによって実施の有無および実施の場合の参加募集を通知させていただければと考えております。準備期間などのご都合もあるとは存じますが、事情をお酌みいただき、今しばらくご猶予くださいますよう、宜しく願い申し上げます。

お問い合わせはメールにて代表者へ。
y.mikuma.ir@cc.it-hiroshima-ac.jp

(広島工業大学)

4. 2020 年度秋季研究大会発表募集要領

2020 年 10 月 17 日 (土) に 2020 年度秋季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。ただし、新型コロナウイルスの発生状況によっては、中止の可能性もあります。

支部秋季研究大会

日時：2020 年 10 月 17 日 (土)

場所：山口学芸大学

(山口県山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号)

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

(a) 発表題目 (Title) : 日本語と英語

(b) 種別 (Style) : 自由研究発表, 実践報告, 事例研究など

(c) 氏名 (Name)

(d) 研究領域 (Research area)

(e) 概要 (Abstract) : 目的, 背景, 仮説, 方法, 結論, 引用文献など。日本語の場合は 600 字以内, 英語の場合は 250 words 以内とする。

(f) 所属 (Affiliation)

(g) 使用機器 (Equipment needed)

(h) 連絡先 (Contact address) : メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2020 年 9 月 30 日 (水)

午後 11 時 59 分まで

■申込先

下記支部 HP の申込フォームをご利用ください。

研究発表及び参加申込みフォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S23969810/>

(7 月 30 日～9 月 30 日まで申込み可能)

懇親会申込みフォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S89320738/>

(10月1日～12日まで申込み可能)

C) プログラムおよび発表スケジュール

詳細は支部会員 ML, および支部 HP でお知らせします。(支部会員 ML へのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 岩中 貴裕

iwanaka@y-gakugei.ac.jp

5. 2020年度『JACET中国・四国支部研究紀要』第18号

投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文, リサーチ・ノート, 実践・研究報告, およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として, 年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は, 所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については, この限りではありません。

投稿論文は, 原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は, 委嘱原稿を除き, 紀要編集委員会が指名する審査員が担当し, 査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上, 奮ってご応募ください。

なお, 発行までの日程は原則として下記のとおりです。

■論文投稿申込締切り: 9月末

■投稿原稿締め切り: 10月末

■審査結果通知: 12月末

■修正原稿締め切り: 1月末

■刊行: 3月末

※年次国際大会や支部大会で口頭発表されていない場合でも, 紀要の投稿規程により, 論文を投稿することはできます。

投稿先: 支部HP フォームズから

仮題目提出

<https://ws.formzu.net/fgen/S42433433/>

投稿原稿

<https://ws.formzu.net/fgen/S47515527/>

お問い合わせ: 紀要編集委員会委員長

岩井千秋(広島市立大学)

E-mail: iwai@hiroshima-cu.ac.jp

6. ～事務局だより～

2020年1月から2020年7月までの新入会員3名をご紹介します。

柳本 萌子

(徳山工業高等専門学校)

八島 等

(広島文教大学)

★新入会員紹介★

(敬称略)

Head, Philip

(広島大学大学院生)

皆様, どうぞよろしくお願ひいたします。

2020年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。支部活動発展のために力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

★支部人事★

【支部役員】

支部長 岩井千秋 (広島市立大学)
副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (*は事務局幹事)
岩中貴裕* (山口学芸大学)
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者
関谷弘毅 (広島女学院大学)

支部研究企画委員 (28名)

五百蔵高浩 (高知県立大学)
池野修 (愛媛大学)
岩中貴裕 (山口学芸大学)
ウィリー・イアン (香川大学)
上西幸治 (福山大学)
榎田一路 (広島大学)
折本素 (愛媛大学)
小崎順子 (川崎医療福祉大学)
小山尚史 (岡山大学)
関谷弘毅 (広島女学院大学)
高垣俊之 (尾道市立大学)
高橋俊章 (山口大学)
瀧由紀子 (松山大学)
田辺尚子 (福山平成大学)
田淵博文 (就実大学)
寺嶋健史 (松山大学)
長崎睦子 (愛媛大学)
中住幸治 (香川大学)
中山晃 (愛媛大学)
二五義博 (海上保安大学校)
平本哲嗣 (安田女子大学)
堀部秀雄 (広島工業大学)
松岡博信 (安田女子大学)
三熊祥文 (広島工業大学)
三宅美鈴 (広島国際大学)

山川健一 (安田女子大学)
山中英理子 (広島国際大学)
ローレンス・ダンテ (就実大学)

【本部委員】

理事 岩井千秋 (広島市立大学)
総務委員会 (支部事務局幹事)

岩中貴裕 (山口学芸大学)
財務委員会 (支部会計担当者)
関谷弘毅 (広島女学院大学)

国際大会組織委員会本部
山川健一 (安田女子大学)

『JACET 通信』委員会
松岡博信 (安田女子大学)

学術出版委員会紀要担当
平本哲嗣 (安田女子大学)

学術出版委員会 Selected Papers 担当
平本哲嗣 (安田女子大学)

セミナー事業委員会
田淵博文 (就実大学)

研究促進委員会
長崎睦子 (愛媛大学)

学術交流委員会
堀部秀雄 (広島工業大学)

大学英語教育学会賞運営委員会
池野修 (愛媛大学)

第60回記念国際大会準備関係

大会委員長
岩井千秋 (広島市立大学)

大会実行委員長 (開催校)
松岡博信 (安田女子大学)

大会副実行委員長
山川健一 (安田女子大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★

● 『支部紀要』第18号

2021年3月31日刊行 (予定)

● 『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』

2020年7月30日 (第25号) 発行

2021年1月10日 (第26号) 発行 (予定)

【編集後記】

会員の皆様、お元気にされていますでしょうか。今年は春季研究大会が中止となつてしまいました。秋季研究大会についても、開始できるかどうか分からない状況です。通常、私の職場は6月と7月はほぼ毎週のように週末に行事が入るのですが、今年はすべてが中止になりました。寂しい気持ちもありますが、そのおかげでいつもよりも家族と過ごす時間が増えています。本を読む時間も増えました。先日、ある本で“silver lining”という表現に出会いました。「(逆境にあつての) 希望の光」という意味だそうです。もうしばらくは、厳しい日々が続く

かもしれません。コロナが収束して皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

(T. I.)



【重要】 JACET (大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩井 千秋 (広島市立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。

1. 支部 HP (<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。
2. 入力フォームのサイトのページ (<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。
3. ウェブの入力フォームに右上の【入力情報】を入力する。

【入力情報】

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

- すでに登録している
希望する
希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス

※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の岩中までお問い合わせください。

アドレス : iwanaka@y-gakugei.ac.jp

メールアドレスを変更された方は、

事務局までお知らせください。

JACET 中国・四国 Newsletter 第 25 号

2020 年 7 月 30 日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部 支部代表 岩井 千秋

編集 : JACET 中国・四国支部 事務局幹事 岩中 貴裕

発行所 : 〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号 山口学芸大学 教育学部
岩中 貴裕

連絡先 : Tel:083-972-3288 FAX: 083-972-4145 E-mail: iwanaka@y-gakugei.ac.jp